

事後評価書

箇所名	主要地方道北勢多度線（阿下喜）		事業名	道路事業	課 名	道路建設課 (桑名建設事務所)
事業概要	工 期 (下段：前回)	平成28年度～令和2年度	全体事業費 (下段：前回)	641百万円（負担率：国：55% 県：45%）		
		平成28年度～令和2年度		700百万円（負担率：国：55% 県：45%）		
事業目的及び内容		<div>■当該路線の概要</div> <p>主要地方道北勢多度線は、いなべ市北勢町阿下喜の国道 306 号を起点とし、桑名市多度町北猪飼に至る延長約 14km の幹線道路であり、事業区間は産業振興の支援や、自動車の円滑な走行空間の確保、緊急時における交通機能の強化を図る道路です。</p> <p>周辺の工業団地、セメント生産工場、物流施設の関連交通が多く、慢性的な渋滞が発生しており、産業振興の支援が求められていました。</p> <p>沿道に東海環状自動車道いなべ IC が接続し、いなべ市役所やにぎわいの森、いなべ総合病院等の拠点施設が立地し、安全・安心、快適な走行空間の確保も課題となっていました。</p> <p>緊急輸送道路や道路啓開ルートとして指定され、沿道にはいなべ市防災拠点倉庫が立地し、広域的な救援・復旧活動を支援する道路の機能強化が求められていました。</p> <p>このようなことから、平成 28 年度にいなべ IC 周辺の 4 車線化および鎌田交差点の改良に着手し、産業振興の支援、円滑な交通流の確保、緊急時における交通機能の強化を図りました。</p> <div>■事業の目的</div> <ul style="list-style-type: none">・産業振興の支援・自動車の円滑な走行空間の確保・緊急時における交通機能の強化 <div>■事業の内容</div> <ul style="list-style-type: none">・事業期間 5 年間（平成28年度～令和2年度）・全体事業費 641百万円 (工事費：590百万円、用地費：51百万円)・計画延長 L=0.44km（起点）いなべ市北勢町阿下喜～（終点）いなべ市北勢町阿下喜・幅員 W=13.0（26.0）m				
1・事業の効果						
1-1 費用対効果分析						
◆費用便益分析結果						
区分		前回 (基準年：H30)	今回評価時 (基準年：R7)	備考		
費用	事業費	6.5 億円	8.4 億円	事業費の変更		
	維持管理費	0.2 億円	0.3 億円			
	合計	6.7 億円	8.7 億円			
効果	走行時間短縮便益	29 億円	34 億円	マニュアルの変更		
	走行経費減少便益	1.4 億円	2.8 億円	マニュアルの変更		
	交通事故減少便益	0.1 億円	1.2 億円	マニュアルの変更		
	合計	30 億円	38 億円			
費用便益分析結果（B/C）		4.5	4.4			

※出典：費用便益分析マニュアル（令和7年8月 国土交通省 道路局 都市局）

※出典：費用便益分析マニュアル（令和7年8月 国土交通省 道路局 都市局）

1-2 費用対効果の検証

◆走行時間短縮効果の検証

当該事業により、鎌田交差点から阿下喜交差点までの走行時間が約2分短縮しました。
(開通前4分 → 開通後2分)

◆走行経費減少効果の検証

当該事業により、現道利用時に比べ北勢多度線(阿下喜)の旅行速度が向上し、走行経費が減少しました。
(開通前17.2km/h → 開通後30.6km/h)

◆交通事故減少効果の検証

鎌田交差点では、平成23年度～平成29年度の7年間での人身事故件数総数は7件発生していましたが、交差点整備後の平成30年度～令和6年度の7年間では4件となり約43%減少しました。また、4車線化区間の整備(令和3年3月)前後4年間の人身事故件数は両期間とも0件でした。

1-3 その他の効果

①産業振興の支援

周辺のセメント生産工場や工業団地の物流車両の多くは、変則交差の鎌田交差点を通過するため混雑や安全面における懸念が続いていました。

鎌田交差点の改良や4車線化整備により、いなべ市藤原地区の産業拠点の主な製品の納入先であるトヨタ車体いなべ工場へのアクセスや名古屋・桑名・四日市・津方面への広域的アクセスが向上し、産業活動の支援に寄与しました。

今後の東海環状自動車道の北伸により、岐阜方面への物資輸送の効率化に寄与するものと考えられます。

②地域関連の交通の円滑化

事業区間起点部の鎌田交差点は、鋭角で付加車線がない変則交差点でした。ピーク時間の著しい渋滞発生や、見通しの悪さなど課題が多い交差点でした。

事業後は、4車線化により交通容量が増加したことから混雑時の渋滞が改善され、8割以上の利用者が走りやすくなったと回答しています。また、変則な交差形状も改善され安全・安心な走行環境が確保されました。

③歩行者・自転車の安全性の向上

整備前は片側歩道で路肩が狭く、大型車両の走行も多いため、歩行者・自転車の安全性が懸念されていました。

事業完了後は両側に3.5m幅の歩道が整備され、地域の道路利用者の8割以上が安全・安心に通行できるようになったと回答しています。

④救急搬送の迅速化

いなべ市北勢地区、藤原地区を管轄とするいなべ消防署北分署の救急搬送出動回数は年間730回あり、事業区間の利用回数は700回と多くなっています。

北勢多度線整備前は鎌田交差点が変則交差点であったことから、見通しの悪さが救急搬送に支障をきたしていましたが、整備後は安全・安心な救急搬送が図られています。

⑤緊急輸送道路の機能強化

当該路線は、第2次緊急輸送道路、道路啓開ルートに指定されています。

事業区間沿道には、いなべ市役所、市災害対策本部、地域内輸送拠点、災害拠点病院、救助活動拠点・進出拠点等が立地し、事業区間の強靱化、広幅員化は拠点に集中する救援・復旧活動車両の迅速かつ円滑な活動を可能にしました。

また、事業区間は、南海トラフ地震をはじめとする大規模災害時において、進出拠点から被災地までのルート上に位置し、沿道のいなべ市災害拠点倉庫等を介し、沿岸地域のいち早い受援に機能するものと考えられます。

2・事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化

当該事業区間はいなべ市役所やにぎわいの森の入口として、多くの利用者が見込まれるため、防護柵部材について景観に配慮した色彩を使用し、周辺環境との調和を図りました。

交差点改良によって新たに生じた盛土区間に植生を促すことで、自然環境や景観の保全を図りました。

3・事業を巡る社会経済情勢等の変化

東海環状自動車道の大安IC～いなべIC間の開通(令和7年3月)を見据え、近年、周辺工業団地の企業立地数が増加しており、今後、更なる企業立地が期待されています。

当事業箇所の沿道には、いなべICをはじめ、いなべ市役所、にぎわいの森、いなべ市防災拠点倉庫が整備され、市内外に向けた拠点機能が一層強化されています。

4・県民の意見

北勢多度線（阿下喜）の意見として、いなべ市北勢町阿下喜小学校区を対象に823通のアンケートを配布するとともに、住民以外の広域的道路利用者に対してWEBアンケートを実施しました。地域住民アンケートは、368通のご回答をいただきました。WEBアンケートにおいては、442名の方からご回答を得られました。

地域住民の約93%、道路利用者WEBアンケートでは約94%が満足と回答しています。

また、利便性向上の視点から、関係機関へのヒアリングを実施しました。

満足と感ずること

【地域住民利用者アンケート】

- ・他地区とのつながりが近くなり、工場等の産業誘致が活発になることを期待する。観光地としても連絡しやすくなり、発展することを期待する
- ・鎌田交差点の交差形状が改善され、渋滞が減って走りやすくなった。
- ・歩道が両側に整備され、歩行者と自動車ともに安全に通行できるようになった。

【広域利用者WEBアンケート】

- ・北勢多度線の整備といなべインターチェンジの開通が相まって、交通量は増加したが、整備前に比べて混雑緩和及び安全性が向上した。
- ・鎌田交差点は夕方になるといつも渋滞して困っていたが、整備後は渋滞することがなくなって通過に時間が掛からなくなって良くなった
- ・遠方からレジャー目的で訪れるため、北勢多度線の整備といなべインターチェンジの開通によりスムーズに行楽地に行けるようになってありがたい。

【周辺事業者へのヒアリング】

- ・どの企業も始業時間が同じで、藤原地区の企業、工場への通勤車両が鎌田交差点へ集中する。桑名、員弁方面から北勢多度線を利用し、鎌田交差点を直進右折するとき、方向別の付加車線が長めに整備されたため、整備以前に比べて、混雑のストレスがなくなり、短い時間で通過できるようになった。

不満と感ずること

- ・市役所前市道との交差点に信号機がなく、市道からの流入、市道への右折流入が危険である。
- ・鎌田交差点の南流入の右折信号が短い。
- ・車線が増え（道路が広くなり）、交通量・大型車が増えて、通過速度も早くなり、危険である。
- ・いなべIC入口交差点に信号機が増え、不便になった。

関係機関の意見

- ・工場立地時に一番の心配事は、鎌田交差点の渋滞でしたが今回の整備でそれが払しょくされました。（自動車部品製造会社）
- ・製品出荷で、鎌田交差点を通過利用しています。また、日常的に多い名古屋方面での商談や県外にある本社での会議に出席する際は、いなべICまでの混雑区間が円滑になり、業務の効率化が図られています。（軽包装資材製造会社）
- ・製品出荷、原燃料搬入のトラックは800～1,000台/日あり、全車両が鎌田交差点を通過しています。鎌田交差点と4車線化区間の付加車線が方向別に整備され、輸送時の安全面が向上し、ドライバーの運転が楽になりました。（セメント・石灰石製品製造会社）
- ・弊社への納品トラックが約300便/日通行しています。輸送業者から、車線増により見通しが良くなり、運転しやすくなったと聞いています。また、北勢や藤原方面からの通勤利用者からは、退勤時に常態化していた渋滞が緩和され、通過時間が大幅に短縮されたと聞いています。逆に鎌田交差点に向かう（西行）区間では道路が広くなり、下り勾配が連続するため、スピードがでて、走行時危険になったというトラックドライバーや通勤利用者がいます。（自動車製造会社）
- ・藤原地区の工業団地への通勤時の鎌田交差点の東流入（北勢多度線の西行）は、事業実施前は大変混雑していました。事業完了後は三方向にそれぞれ車線が整備され、信号待ち時間も少なく、スムーズに走行できるようになりました。（物流会社）
- ・整備前の鎌田交差点は、対向直進車両の見通しが悪く、対向車の速度が速いため、ヒヤリと感じたことが数回ありました。事業後は、付加車線が確保され、対向車の見通しが良くなり、安全安心で不安感がなくなりました。（いなべ市都市整備課）

	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、事業区間を歩いて通学する児童はいませんが、上級生になると歩いて通学することになると思います。歩道が広くなり、車道との間にガードパイプが設置され、通学児童の安全性が十分確保されていると思います。（阿下喜小学校） ・北勢多度線といなべ IC の整備が一体的に実施され、特に重篤な患者を桑名市や四日市市の 2 次、3 次医療施設へ搬送する時間短縮や加減速が少ない走行による患者への負担軽減効果は大きいと思います。（いなべ消防署北分署） ・本分署は、特殊車両(10 t 水槽車)を有しており、管内他消防署の応援出動機会が多く、鎌田交差点の改良は安全な通行に寄与しています。（いなべ消防署北分署） ・事業区間は地盤が悪く、大災害時には電柱や家屋の倒壊等で緊急輸送道路としての機能性確保が懸念されていました。道路が広くなり強靱化が図られ、沿道のいなべ市防災拠点倉庫の機能強化が期待されます。（いなべ市防災課） ・南海トラフ災害時のくしの齒ルートの複数ルート形成が期待できます。（進出拠点の藤原文化センターから鎌田交差点で 3 ルート：国道 306 号、東海環状自動車道、北勢多度線に分岐、各沿岸被災地へ進出）（いなべ市防災課）
5・再評価の経緯	
<p>当該事業は、平成28年度に事業着手し、平成30年度に再評価を実施しています。平成30年度の再評価において事業継続の妥当性が認められたことから、事業継続を了承されています。</p>	
6・今後の課題等	
<ul style="list-style-type: none"> ・市民から寄せられた意見は、主に交差点における信号や交通運用に関する意見です。警察に対し、いなべ市と連携して引き続き改善要望するとともに、必要に応じて道路管理者として実施可能な対策を検討します。 ・交通量の増加および通過速度の向上に伴う危険性に対する意見については、今後の交通状況の推移を注視し、必要に応じ警察と連携し対策を検討します。 	
7・委員会意見の概要 【事業方針作成時に記述】	
8・事業方針の概要 【事業方針作成時に記述】	

※再評価実施事業は(下段前回)とし、前回再評価時の内容を記載する。未実施の場合は（下段当初）とし、当初計画時の内容を記載する。